

# 登尾山古墳

伊勢原市教育委員会

登尾山古墳は、昭和 35 年に偶然発見され、神奈川県教育委員会と國學院大学の手で発掘調査が実施されました。その結果、川原石を積み上げた横穴式石室が確認され、その内部から数々の遺物が出土しました。

この古墳は三之宮比々多神社の西側、標高 110 m ほどの丘陵上に位置します。痩せ尾根上に立地することから墳丘の規模は大きくありません。しかし、南側の眺望は素晴らしく、大磯丘陵から相模湾、江ノ島、三浦半島までを望むことができます。まさに選ばれた地という印象を受けます。

市指定文化財に指定されている主な出土遺物は、圭頭大刀など金銀で飾った装飾大刀を含む複数の直刀、金銅装の馬具、銅鏡、銅鏡、須恵器高坏、土師器坏等です。さらに、周辺からは家形埴輪や人物埴輪も出土しています。金銅製の馬具には、鏡板付轡、杏葉、雲珠、辻金具、帯飾金具等があり、鞍を除く一式が認められます。

特に、金銅製の馬具、金の飾りが付けられた大刀、銅の鏡、大型の家形埴輪は、いずれも県内屈指の遺物です。金銅製の鏡板付轡は相模地域で 2 例（もう 1 例は伊勢原市らちめん古墳）、高台と蓋が付いた銅鏡、組み合わせ式の家形埴輪は相模唯一の出土例となります。さらに、ひとつの古墳から金銀の飾り大刀が 2 例出土しているのも、登尾山古墳だけとなります。

下の図は、後期古墳としては珍しい銅椀と

## 圭頭大刀

金の柄頭と鐔をもつ飾り大刀です。



登尾山古墳の位置

三ノ宮と坪ノ内を分ける尾根上に立地します。



鏡板付の轡



金銅製の杏葉

馬を飾る飾り板。鏡板と同じデザインです。

銅鏡の分布を示したものです。県内の出土例は、銅甕が5例、銅鏡も5例と限られています。登尾山古墳では両者がそろって出土しており、さらに銅甕は、県内唯一となる高台と蓋が付くタイプです。

以上のように、登尾山古墳には、飾り大刀、金銅製の馬具、銅甕、銅鏡、さらに埴輪と、古墳時代後期のステータスシンボルともいべき貴重な品々が納められていました。そして、これらがひとつの古墳から出土した県内ただひとつの例です。こうしたことから、この登尾山古墳に葬られた人物は6世紀後半から7世紀にかけて、相模地域を支配した最高権力者であったと考えられています。

また、三ノ宮地区では、らちめん古墳のように、登尾山古墳と肩を並べる

内容の古墳も見つかっています。さらに両古墳ほどではないにしろ、優れた内容の副葬品が出土している古墳も点在しています。三ノ宮地区周辺は、後期古墳の内容としては県内屈指の存在であり、相模の支配者層の神聖な墓域であったと考えられます。



銅甕

高台、蓋付きは県内唯一で



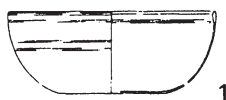
銅鏡

らちめん古墳と並び、県内5例のうちのひとつ。

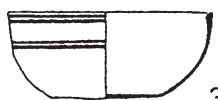


相模国領域出土の銅甕・銅鏡

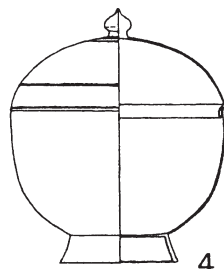
	遺跡名	備考	No
銅甕	総世寺裏古墳		1
	岩井戸横穴		3
	登尾山古墳	有蓋高台付	4
	▲鳥ヶ崎横穴墓		7
銅鏡	下田6号横穴墓	乳文鏡	2
	登尾山古墳	五瓣形鏡	4
	らちめん古墳	乳文鏡	5
	鳥ヶ崎B横穴墓		6
●鳥ヶ崎横穴墓		珠文鏡	7



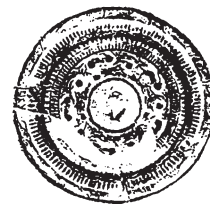
1



3



4



4

銅鏡

相模地域における銅甕、銅鏡の分布